令和元年度　山科区地域保健推進協議会　議事録

日　時：令和元年１０月３日　午後２時～午後３時３０分

場　所：山科区役所　第４会議室

出席者：戎井　浩二（山科医師会会長），杉江　良啓（京都市山科歯科医師会会長），猪奥　真理子（山科薬剤師会会長），清水　一美（京都府助産師会理事（東支部長）），前坂 己美子（山科区民生児童委員会副会長），内海　敏（山科区健康長寿推進協議会会長），村西　法子（山科区地域ごみ減量推進会議会長），柳生　勝儀（山科区老人クラブ連合会会長），奥田　末子（山科区地域女性連合会副会長），西谷 千賀子（わの会世話人），山口　寿延（福田金属箔粉工業株式会社総務部長），奥山　幸子（京都府医師会看護専門学校副校長），入江　和栄（市民公募委員），古屋　和男（市民公募委員）

欠席者：佐治　俊彦（山科区社会福祉協議会会長），仲川　徹（山科警察署長）

１　開会挨拶

　　山科区役所保健福祉センター長（藤川部長）より挨拶

　　出席委員の自己紹介

　　事務局職員の紹介

　　山科わっはっは体操（岡本担当課長）

２　議事

　　戎井部会長による議事進行

　　議題１「平成３０年度地域保健活動実績報告について」健康長寿推進課岡本担当課長より説明。

　　議題２「令和元年度地域における健康づくり事業について」健康長寿推進課岡本担当課長，医療衛生コーナー狭間係長，子どもはぐくみ室中川課長，障害保健福祉課大井課長より説明。

　　＜質問・意見＞

（戎井委員）感染症については，統計に出ていないものもあるのではないか。

（岡本担当課長）届け出のあった件数のみ把握していることになる。結核以外の感染症は，受診した医療機関の所在地に届け出される。疾病によっては，氏名，住所の届け出が不要のものがあり，山科区に住所がある人とは限らない。

（井上課長）結核以外の感染症についての報告件数の増加については，感染症法改正等により報告義務のある病名が増えると件数も増えることとなる。平成３０年度からは百日咳が加わった。

（猪奥委員）　保険薬局を営んでいるが，結核の患者についての情報はどのような方法で薬局に知らせてくれるのかを教えてほしい。

（狭間係長）結核の患者との接触者健診については，患者本人からの情報と，受診した医療機関からの情報をもとに症状や接触時間など総合的に評価し対象となる方を判断している。

（岡本担当課長）薬局への情報提供については，明確な基準はない。処方されている薬（抗結核薬等）から判断できると思うが，病院から情報提供されたケースなどあるのか。

（猪奥委員）結核と診断されずに治療をしていたが，咳が治まらず，のちに結核になってしまった患者がおり，保健所に知らせ，その患者に関わった薬剤師数名の検査を行い高額な治療費となった。自己負担となっているが，公費からの助成はないのか。

（井上課長）個別の事例になるので，後で相談させてほしい。

（古屋委員）「がん検診受診者数」について，男女別の統計はないのか。

（岡本担当課長）抽出していないので男女別は不明である。

（清水委員）精神疾患を患った妊婦が多い。精神科の入院施設のある病院で出産することが望ましいが，山科区のみならず京都市としても，受け入れられる医療機関がほとんどない。京都市全体の課題であると思う。

（戎井委員）高齢化率の上昇は現場としても実感しているところである。孤立している世帯について，区として，市全体としての取組はあるのか。

（岡本担当課長）京都市としては，民生委員や老人福祉員などの見守り活動，山科区としては，新聞屋さん見守りネットワーク事業，学区単位での鍵預かり事業，地域の居場所づくり事業などに取り組んでいる。高齢者等の方が社会参加に結びつくような働きかけを目標に掲げているが，本当に必要な人ほど参加してもらえていないのも現状である。

（杉江委員）今年度の熱中症対策の取組効果の検証はどうなっているのか。

（岡本担当課長）７，８月の救急搬送件数は減少している。これは気温にも左右されることである。熱中症による死亡者の有無は確認中である。

（清水委員）町内の役員をしているが，市民しんぶんを配布する際，新聞などで郵便受が

　　　　　　満杯になっていたときは，どこに連絡したらよいのか不安である。孤独死して

　　　　　　　　　　　　　いる場合などを考えるとどのタイミングでどこに連絡すればよいのかを把握しておきたい。

　　　　　　　（岡本担当課長）区役所に連絡してもらえればよい。

（入江委員）町内会を高齢を理由に（役を引き受けられないので）辞めたいと申し出る人がいる。若い人たちは，高齢化した人の精神状態を理解するべきである。

　　　　　　協力しあえる部分，人と人との顔を合わせる時間が必要である。気軽に話し合える場を，行政がもっと作ってほしい。

（古屋委員）町内会などは，学区の事情が大きく左右すると思う。誰もが町内会に入るような魅力のある町内会づくりが必要である。

（清水委員）若い人は忙しくしており，町内会の役をする時間がない。でも，要求はしてくる場合が多い。

（柳生委員）町内の公園について，使用はするが掃除をする人は少ない。

　　　　　　町内会に入ること，老人会に入ることに対して，行政がアナウンスをしてほしい。

（内海委員）ゴミの収集に関しても，町内会を介さず個人でまち美化事務所に連絡しても役所が対応するので，町内会に入ることの意味が薄くなってきている。

（古屋委員）町内会に入っていないと，回覧板で回ってくる情報は得られないが，他の方法で情報を得ることはできる。

（奥田委員）「８０５０問題」について。国全体での問題だが，京都市の相談件数は増えているのではないか。

（前坂委員）ひきこもりの相談は役所で対応しているのではないか。

（小嶋室長）４０歳以上は「こころの健康増進センター」で，３９歳以下は「子ども若者相談センター」で対応している。

９月市会の市長答弁にて，相談窓口を一本化していく方向であることが示されている。